

て報告した。また、平成18年4月から19年2月までの運用実績について報告した。

この間の大腿骨頸部骨折患者は59例（平均年齢80.9歳）であり、25例に連携パスが適用され、術後平均17.8日で転院した。平均在院日数は、連携パス導入前の平成17年1月から12月までが35.1日であったのに対し、連携パス適用25例は21.8日に、連携パス非適用34例も28.8日に短縮した。

連携パス導入後も、3病院と地域連携パス担当者会議、患者・家族への満足度調査、スタッフへのアンケート調査を実施しており、連携パスの改訂、質の向上に継続的に取り組んでいる。

2 長岡地区における

大腿骨頸部骨折地域連携パスへの取り組み

川嶋 禎之¹⁾・長谷川淳一²⁾
河路 洋一³⁾・長部 敬一⁴⁾
山田 智晃⁵⁾・高橋 利明⁶⁾
田中 稲実⁷⁾

地域連携診療計画研究会
(整形外科)
長岡赤十字病院¹⁾
長岡中央総合病院²⁾
立川総合病院³⁾
長岡西病院⁴⁾
悠遊健康村病院⁵⁾
吉田外科病院⁶⁾
岩室温泉病院⁷⁾

平成18年度診療報酬改定の目玉として、地域連携診療計画管理料が新設されました。これを受けて、長岡地域では、整形外科医の常勤するすべての病院（急性期3病院、回復期4病院）が集まり地域連携診療研究会を立ち上げました。ちなみに長岡市の人口は約28万人であり、頸部骨折手術数は年間約300件です。研究会はこれまで4回開催され、ネットワーク作りから始まり、パスの基本的骨格・適応基準・治療方針・達成目標について討論を基に、患者用パス、医療者用パスの作成をしてきました。平成18年8月から運用を始め、これまで6ヶ月間の連携パスの使用実績

は、急性期病院頸部骨折入院患者数159に対し、パスを適用して退院したものの15とまだ少数でした。会の発足から1年も経っていないシステムですが、今後もデータの集積、分析を基に、進化し続けることでよりよい医療を提供するためのtoolにしていけたらと考えています。

3 回復期病院における

大腿骨頸部骨折地域連携パスへの取り組み

竹前 貴志

総合リハビリテーションセンター
みどり病院

4 長岡市薬剤師会における

吸入指導システムの試み

一中広域病院との地域連携と

今後の課題について

室橋 正朋¹⁾⁻³⁾・藤木 学¹⁾・川又 隆²⁾
大久保耕嗣¹⁾²⁾・木口 俊郎⁴⁾・佐藤 和弘⁵⁾
(株)えちごメディカル西長岡
調剤薬局¹⁾
えちごメディカル古正寺薬局²⁾
長岡市薬剤師会³⁾
立川総合病院 内科⁴⁾
長岡赤十字病院 内科⁵⁾

【はじめに】長岡市薬剤師会は、平成17年5月から市中広域病院と共に、吸入指導依頼書を介した地域連携のシステムを面分業で開始した。この形態は国内でも初めての試みである。開始以前に、2病院の呼吸器内科専門医と市薬理事の間で数回の打ち合わせを行ったのち、会員薬剤師に向け講習会も開催した。現在は大きなトラブルもなく稼働している。そこで我々は、今後の業務を更に充実させるため、西長岡調剤薬局で依頼を受け指導を行った全件について内容を検討した。

【方法】平成17年5月より平成18年6月15日まで、当薬局で吸入指導を行った100件について集計した。患者の吸入手技について、操作方法、吸入速度、息こらえ、うがいに分類し、個々に0